

## 海外の合唱 見当たらないマスク

アルゼンチンの36年ぶり3度目となる優勝で幕を閉じたFIFAワールドカップ。観客席ではマスク姿がほとんど見られませんでした。また、合唱の世界においても海外ではマスクを外して演奏しているようです。

ところが、日本では相変わらずマスクが外せない状況が続いています。どうしてなのでしょう？ その違いを探ってみました。

### 歌い手も聴衆もノーマスク

今年9月、ポルトガルのリスボンで開かれた「第3回世界合唱博覧会」の様子を写真で見てください。

(画像は Iervinne Eeder, IFCM より)



ごらんのよう舞台上ではマスクをして歌っている人は一人もおりません。では、なぜ、海外では合唱団はマスクなしで歌えるのでしょうか。

### 9月のポルトガル

9月のポルトガルでどのような感染防止対策や規制があったのかを公的機関のサイトを検索してみました。

#### 【在ポルトガル日本大使館】

##### ◎ ポルトガル入国の際の規制 ◎

2022年7月1日より、ポルトガル入国の際のワクチン接種証明書及び陰性証明書の提示は不要となっています。

##### ◎ ポルトガルでの感染防止策 ◎

9月30日、ポルトガル政府は、ポルトガル大陸部に宣言されていた「警戒状態」を終了。現下の感染状況に鑑み10月1日以降、国内措置を以下のように見直しました。医療施設及び高齢者施設におけるマスクの着用義務は継続されています。

1. 感染時の5日間の隔離義務を解除し任意とした。
2. 感染を理由とした勤務免除とその間の所得保障を廃止（社会保障上の特別措置がなくなり、その他の傷病・疾病と同じ扱いになった）。
3. これまで国家保健サービスの管理下で行われていた新型コロナウイルス検査は、市中の医師の指示により行う体制となりました（これにより公衆衛生上の無料の抗原検査サービスが消滅）。

#### 【ETIAS=欧州渡航情報認定制度】

マスク着用：医療・介護施設ではマスク着用が求められています。また、屋内エリア、航空機を含む公共交通機関、薬局、陽性診断後10日以内の感染者は着用が推奨されています。

新型コロナウイルスの感染防止を目的とした入国制限は、大半のヨーロッパ諸国で撤廃されました。滞在中に求められる感染対策も、マスク着用や医療・介護施設の訪問に関する要件を除き撤廃されていますが、措置の詳細は国・地域により異なります。

### 感染者数

#### 【NHK特設サイト=ジョン・ホブキンス大学発表】

◎ポルトガルの感染者数は9月上旬で多い時で1日5,750人、ほかは2,700~3,750人程度。

◎ポルトガルのワクチン接種回数(100人あたり)の世界ランキン

グではトップ18の国には入っていません。

### 世界のワクチン接種状況

NHKの特設サイトにある世界のワクチン接種状況を見ると、累計の接種回数は中国が1位、日本は6位です。



但し、中国のシノバック製ワクチンは、客観的評価に必要なデータが公表されておらず、効果がどれだけあるか不明なところが問題です。いっぽう、100人当たりの接種回数では日本が1位となっています。すでに5回目の接種を済ませている方も多いためです。



### 日本ではガイドラインで

文化庁のサイトを見ると、新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応として、音楽活動に関して言えば、以下のガイドラインが掲載されています。

#### 文化施設における感染拡大予防ガイドライン等

- ▶子供たちを対象とした全国大会・コンクール等における成果発表の機会の確保等に係る取組について (周知依頼) (令和3年8月6日)
- ▶劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン改定版 (令和4年10月31日)
- ▶クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン (令和4年10月7日)
- ▶舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン (令和4年11月4日)

**学校における対策**：小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス

感染症対策の徹底について(通知)(2020年12月10日)

**全日本合唱連盟作成**：合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン(第3版)(2021年6月7日)

**全日本吹奏楽連盟作成**：吹奏楽の活動及び演奏会等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン(2020年9月2日)

#### ◎参考サイト◎

[https://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/sonota\\_oshirase/20200206.html#info08](https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/20200206.html#info08) (文化庁)

#### 【編集後記】

◆日本人は慎重だということと、お上が以前のように活動を再開してもよいと言うまで、ずっとこのままの状態なのかも知れません。2年前、合唱でクラスターが発生したときにはボコボコに叩かれたことを皆さん覚えていらっしゃるかもしれませんよ？ いつだったか、合唱付きのオーケストラの演奏会で、クラスターが発生したようですが、大きなニュースにもなりません(見落としているのかも知れませんが)。また、合唱連盟等が実験した飛沫の分布データは、このクラスター発生現場ではなんの役にも立たなかったようです。結局、無風状態は現実ではあり得なく、空調なりで空気の動きはある訳ですから。(E)

◆海外ではすごい人数がステージに立ってますね。羨ましい。クラスターは起きていないのです。埼玉県合唱連盟は本年度いっぱいマスク着用と決めています。個人や単独の団体の演奏会ではもうほとんどマスク無しで歌っています。ただ県主催だと複数の団体が次から次に入れ代わりステージにあがるので、慎重になっています。来年は世の中の状況をみて話し合う事になっています。埼玉県は特に慎重なのかもしれませんが、外して良い根拠が見当たらないからだと思います。マスクをしていると歌うメンバーの表情を観客に観てもらえない、また指揮者の表情も団員に観てもらえない。呼吸も苦しい。非常にもどかしいです。誰か外しても良いと言ってくれないですかー？ (M)

◆厚労省発表の新型コロナウイルス重症化率や致死率(12/21)に対して専門家は「過小評価の可能性がある」と慎重な見方を示しています。それは死者数を正確に把握できていない恐れがあるため、新型コロナが「季節性インフルエンザに近づいたとは判断できない」としています。致死率については、例えば7-8月の感染者には10月以降に死亡した人が含まれておらず、過小評価になっているからです。また、評価に茨城、石川、広島3県のデータを使ったのは、感染者の重症化や死亡などを追跡調査している自治体を選んだためですが、それでも正確に把握できていないことが危惧されるということです。国立感染症研究所長は「感染者の増加に伴い、死者数も増えており、社会全体へのインパクトも見えていく必要がある」と話しています。(K)